

ご案内

観梅祈願祭 2017

日時：平成 29 年 3 月 3 日（金）11 時～

場所：結城神社社殿、しだれ梅庭園

津市藤方 2341 TEL059-228-4806

皆様の幸せを祈願いたします。

先着 20 名様、拝殿で一緒にご祈祷を受けられます。

（10 時から境内テントで受け付けます）



昨年 拝殿の様子

寺社ちよっといひ話

■喜びをいただいて

多田久美子（津市 高山神社宮司）

当社には、総合学習や夏休みの自由研究の題材として郷土の事、津城のこと、藤堂高虎の事などを調べたいと小・中学生が訪れる。昨年（平成 28 年）には研究対象として七福神が加わってきた。

夏休みに入った頃、小学 6 年生の安井歩夢君がやって来てくれた。三重ふるさと新聞（会長の西田久光氏は友の会会長）で、津の七福神があることを知り、初宮詣りや七五三詣りをした当社が霊場の一つであることで興味をもち、研究をしたいと思ったそうである。夏休みの数日をかけて、ご両親や弟さんと各寺社を

巡り熱心に話を聞き、写真を撮っている姿を見ていて、どん

な風にまとめていくのかしらと思っていた。9 月に入ったある日、お母様から「宮司さん、津市社会科展に学校から選ばれ出展するんです。」と嬉しい連絡をいただいた。これは是非とも行かなければと思っていますと、当社の役員さんから「うちの七福神が出ているぞ」と、知らせていただいた。早速、会場のリージョンプラザへ行ってみた。大きなスケッチブックに、調べるきっかけや準備したこと、参拝の様子や内容、感想等を写真やシール等も使い素直に上手にまとめてありました。七福神開創にあたり主旨として、津の街やその歴史を知って欲しいということがあります。会場の作品を観ていくうちに、子供達の心の成長や向学心の素晴らしさや、親御さん達の熱心さも伝わってきて私自身が何かのお役に立てているのかしらと思えたのです。

季節は秋となり七五三詣りの子供達を迎えている 11 月 13 日、巡拝者 2500 人目がいらした。

鈴鹿市在住の竹野孝子さん、新村智弘さん親子である。巡拝 7 回目となるおふたり、確か初めて巡拝されたのは当社の秋季例大祭の日であったように記憶している。その後 3 周年、4 周年と来て頂き、にこやかな顔にお会いすることができた。今回 2500 人目ということでおふたりは「感謝と喜びでいっぱいです。」と語られ、お母様のお部屋に色紙を飾られているそうで、これから巡拝を続け色紙を増やしていきたいとも語られた。



私達は巡拝者の方が喜んでいただけるならと各霊場でお待ちしているが、実は逆で私達が巡拝の方から喜びをいただき励みになっているのではと思っています。何かの役に立てることが喜びとなり、大きな福へとつながっていくのだと思う。



寄稿

■「自然災害は治癒 ！？」

岩井 淳一（北海道 菩提寺住職）

今冬の北海道の初雪は例年よりも早く、札幌近郊の私の町では 10 月 21 日でした。確かに 10 月に降ることはありましたが、近年は極端な気候変化であり、10 日間余りの間に冷房から暖房にかわるような状態。雪質も北海道独特の所謂パウダースノーではない重たい雪が大量に降る為、初雪がそのまま根雪になってしまう年も増えたように感じます。



昨年は台風に稀縁の北海道が四度襲われました。又、熊本地震をはじめ毎年異常な自然災害が私たちに不安にさせます。何故近年増えたのでしょうか？

人間は身体に異常を感じた時にそれを自分で治そうとします。熱が上がったり、鼻水が出たり赤血球が増えたりする等の自然治癒。今の自然界、地球がそうになっているのかもしれませんが。地球という人間が体調が悪くなり、そのバランスを取り戻そうと頑張っている。自然に対する謙虚さを忘れた人間社会に対し厳しい環境が続いている今、私達人間から見ると『自然災害』も本当は『自然治癒』なのかもしれません。自然界に活かされている私達が自然界の病原と診断されては大変です。排除されぬよう自然界における私達の役割を今一度考える時期にきたのかもしれませんが。 合掌

■「足の裏から光がでる」

丸子 孝法（福井県 永平寺副監院）

仏教詩人坂村真民の詩に「尊いのは足の裏である」とあります。尊いのは頭でなくて、手でなくて、足の裏である。一生人に知られず、一生涯たない処と接し、黙々としてその努めを果たしていく、足の裏が教えるもの。私はこの詩を読んで、ホントダナーと思う。一生誰にも知られず全体重をささえてくれる足の裏、黙って努めを果たしている足の裏、人間そんな生き方ができたら、すばらしい。目立ちたがり屋、



自慢したがり屋の私は、この詩を読むたびに、生き方の原点を教えてもらうような気がして、心がひきまします。檀家の S さんは、昨年の叙勲で瑞宝単光章を受章されました。若い頃から長年消防団員として世のために努められた方です。社会の安全のため消防一筋に歩んでこられました。S さんのように、足の裏から光が出る人こそ本当の福の神です。

■「薪割り」

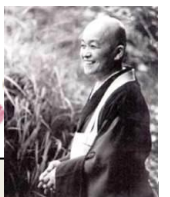
竹林 史博（山口県山口市 龍昌寺）

古刹長国寺（長野県）元住職吉田興山老師曰く「ある別荘に男を雇っていた。彼は何をさせても駄目であるが、薪を割らすと天下一であった。どんなフシのある木でも真ッ二つに割ってしまう。人間はそれぞれ得意がある。それをもって他人様のために尽くせば生きてゆけるのではないか—」



拙寺も薪ストーブで、春先は薪割りに大忙しだから、ことのほか興味深い話。

「随所に主となれば、立処皆真なり」（臨濟録）を彷彿させる。



泥多ければ 佛大なり

あきらめるな 道は開かれている

青山俊董（愛知 専門尼僧堂正法寺）

《伊勢の津七福神友の会事務局》

〒514-0033 津市丸之内 27-16 高山神社内

電話：059-225-8558



編集後記：ご意見、原稿お寄せ下さい。

安井歩夢君が新中学生となって羽ばたいていく姿が楽しみです。

池上 kanon@nifty.com